

【FD 報告】

# LEC会計大学院におけるIMAとの連携の これまでとこれから — USCMAカリキュラムを軸とした実践的教育の広がり —

結城 邦博

## I. はじめに

2025年6月から、米国管理会計士協会（IMA）主催の米国公認管理会計士（USCMA）試験が日本語で受験可能になった。本学は、多くの学生が税理士志望であり税法論文に取り組んでいる一方で、IMAとも浅からぬ関係をこれまでに築いている。

2022年12月、IMAと本学は大学パートナーシップ協定を締結した。それに伴い、2023年4月から、筆者が講師となり USCMA 勉強会を開始した。一見、突然パートナーシップ協定を締結したように見えるかもしれないが、それは過去の取り組みの積み重ねによるものであり、USCMA 勉強会の発足はその成果といえる。本学でのIMAのつながりについてご紹介する前に、IMAが主催する資格について、解説したい。

## II. 米国管理会計士協会（Institute of Management Accountants, IMA）について

IMAは1919年創立の管理会計プロフェッショナルの発展に専念する最大かつ最も高く評価されている職業人団体の一つである。世界的に研究、米国公認管理会計士（USCMA）などの資格や認定プログラム、継続的な教育、ネットワーキング、そして最も高い倫理基準に基づいた事業慣行の推進にも取り組んでいる。現在では150カ国で会員が約14万人、200以上のプロフェッショナル・学生支部を有するグローバルネットワークを展開している。

### III. IMA が提供している資格

#### 1. 米国公認管理会計士 (US Certified Management Accountant, USCMA)

1972 年に試験を開始しており、50 年以上の歴史がある。現在では 150 か国以上 10 万人以上の CMA 保有者がいる世界的にも著名な資格であり、試験範囲は、FP&A 領域に必要とされる知識・スキルをカバーしている。試験はパート 1、パート 2 に分かれており、それぞれの試験時間は 4 時間で 100 間の選択問題と 2 間のエッセイ問題が出題される。試験範囲は以下のとおりである。

パート 1 - 財務プランニング、業績および分析	出題割合
外部財務報告にかかる意思決定	15%
プランニング、予算編成および予測	20%
業績管理	20%
原価管理	15%
内部統制	15%
テクノロジーおよび分析技術	15%

パート 2 - 戦略財務マネジメント	出題割合
財務諸表分析	20%
コーポレートファイナンス	20%
意思決定分析	25%
リスクマネジメント	10%
投資の意思決定	10%
職業倫理	15%

#### 2. 米国財務・管理会計アソシエイト(Financial and Managerial Accounting Associate, FMAA)

2024 年 3 月より実施されている新しい資格である。USCMA より難易度を低めに設定しており、大学生やジュニアレベルの社会人、財務・経理分野以外の社会人などの受験を想定している。試験時間は 2 時間で 80 間の選択問題が出題される。試験範囲は以下のとおりである。

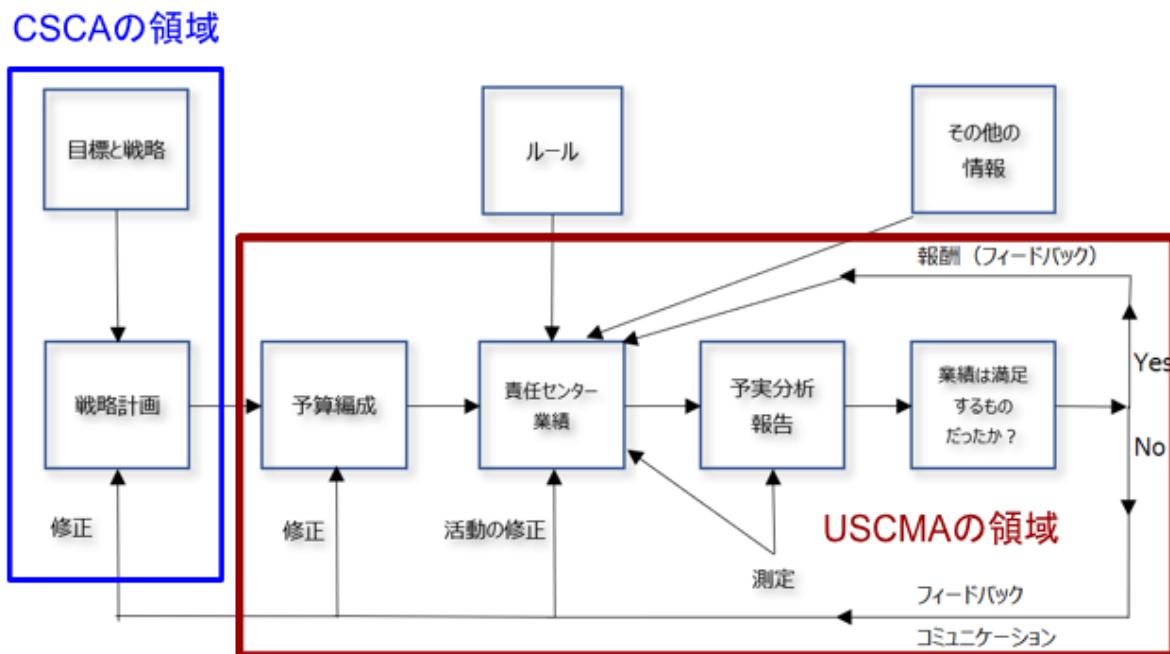
米国財務・管理会計アソシエイト	出題割合
一般会計および財務管理	25%
財務諸表の作成と分析	25%
プランニングと予算編成	20%
原価管理と業績指標	20%
職業倫理	10%

### 3. 米国戦略・競争分析認定資格 (Certified in Strategy & Competitive Analysis, CSCA)

USCMA や FMAA は外部のオンライン教材などで学習する必要があるが、CSCA については、IMA の公式オンライン教材が準備されており、これを使って学習する。試験時間は 3 時間で 60 問の選択問題と 1 つのケーススタディが出題される。試験範囲は以下のとおりである。

米国戦略・競争分析認定資格	出題割合
戦略分析	25%
競争優位の創出	40%
戦略の実行と業績評価	35%

USCMA と CSCA についての試験範囲の区分については、Anthony の「Management Control Systems」から引用した表を使うと理解しやすいのではないかと思うので、下の図を紹介したい。



## IV. IMA と本学とのつながり

### 1. 西澤脩先生の講義

筆者は 2007 年に本学に入学した。当時、管理会計領域の必修科目「管理会計の全体構造」「原価計算 I」を西澤脩先生が担当してくださっていた。西澤先生は早稲田大学での商学部長や日本管理会計学会長など歴任され、本学の創設当初に教壇に立たれておられた。講義では米国ミシガン大学にご留学されていたころのご経験など、ユーモア交えお話しいただき、非常に楽しく受講した思い出がある。その中で、IMA が発表した論文などを精力的に日本に紹介されたお話もされ、IMA という組織があることを

知ったのもその時である。西澤先生は長い間、IMA 東京チャプターの代表をつとめてらっしゃったとも伺った。なお、西澤脩先生は 2025 年 4 月にご逝去されました。ここに謹んで哀悼の意を表します。

## 2. USCMA 取得

2009 年に本学を卒業し、翌年 2010 年に米国公認会計士（USCPA）を取得し、その翌年 2011 年に米国公認管理会計士（USCMA）を取得した。USCMA については、西澤先生から IMA のことをうかがっていなければ、その存在を知らず、受験していなかったのではないかと思う。

## 3. 2013 年度から CMA Review を基にした「管理会計入門」を開講

本学の管理会領域の教員である山本宣明先生より、お話をいただき、2013 年より「管理会計入門」および「財務分析論」の開講させていただくことになった。山本先生とは 2008 年に先生の「英語で読む管理会計論文」の講座を履修し、そこからの縁である。その時の「英語で読む管理会計論文」は、英語の原書である Anthony 著「Management Control Systems」を履修生が輪読するものであったが、履修生は筆者一人であり、毎回、1 章ずつ読み進めレジュメを準備するという、かなり負担の大きい内容ではあった。一方で教材が非常に興味深く、毎回の授業を心待ちにしていたことを記憶している。こうした経緯もあり、卒業後も山本先生と連絡を取り続けており、USCMA に合格したことでもお伝えしたことがきっかけで、USCMA のカリキュラムをベースに授業を構成する話につながっていった。「管理会計入門」では、USCMA 受験勉強で使用した「Gleim CMA Review」を基に全体を構成し、設例なども参照しながら、授業内容やテストを準備した。

## 4. IMA ケーススタディの導入

2019 年度から「管理会計入門」から、発展的に「管理会計論 I」「管理会計論 II」へ移行するにあたり、IMA ケーススタディを導入した。現在では「管理会計論 III」も開講しており、全部で 5 つの IMA ケーススタディを取り入れている。これらのケーススタディは、英語原文を翻訳・再構成し、スライドにまとめ、講義で解説している。主人公がいるストーリー仕立てになっており、アンケートでの履修生からのフィードバックも概ね好評である。

- ・バランスト・スコアカード「トリシティーズ・コミュニティ銀行」
- ・不正会計「ダイヤモンド・フーズ」
- ・原価計算・業績評価「ファイン・フーズ」
- ・意思決定分析「フラ・アイランド」
- ・戦略的意思決定「ベビーフリーダム」

この中から、バランスト・スコアカード「トリシティーズ・コミュニティ銀行」について内容を少し紹介したい。

「本ケースは、米国中西部の地方銀行「トリシティーズ・コミュニティ銀行 (TCC 銀行)」が、業績改善のためにバランスト・スコアカード (BSC) を導入する過程を描いている。南部門長となったクリス・ビリングスは、自身の MBA での学びを活かし、試験的導入に挑戦した。

「財務」「顧客」「内部プロセス」「学習と成長」の 4 視点から業績指標を設定し、因果関係の構築を試みる。支店長たちとの協働を通じて導入が進む一方で、支店間での取り組みの温度差や現場の反応も浮かび上がる構成となっている。最終的な導入判断は、定量データと現場の声を踏まえた取締役会の評価に委ねられる。」

## 5. 2022 年 12 月 IMA と大学パートナーシップ協定の締結

「FP&A 研究」をご担当いただいている石橋善一郎先生が IMA 日本支部の代表に就任されたことを受け、本学に大学パートナーシップ協定についてお知らせいただき、本学の研究科委員会の先生方や学長の賛同を得て IMA と大学パートナーシップ協定を締結するに至った。

協定には、在学生を対象とした USCMA スカラシップ制度が含まれており、あわせて USCMA に関する講座の設置も求められていた。これを受け、2023 年度より「USCMA 勉強会」を開催することとした。

## 6. 2023 年度から「USCMA 勉強会」を開始

2023 年 4 月より、「USCMA 勉強会」を開催した。年 10 回のコースで単元ごとの概念の説明に加え、毎回 15 間 – 20 間程度の問題を解説するものである。在学生・修了生を主な対象としているものの、外部にも開放していることもあり、これまでに累計で 30 名近くの方に履修登録をいただいている。

2025 年 6 月より、USCMA 試験の日本語版がリリースされるとのニュースを受け、2025 年度から「USCMA 勉強会（英語版）」に加え、「USCMA 勉強会（日本語版）」も提供することとした。また、2024 年度までライブ配信していたものを 2025 年度からは事前収録したオンデマンド配信に切り替え、履修しやすい形に変更している。

## 7. 今後の対応：「FMAA 勉強会」の検討

東京商工会議所主催の「BATIC（国際会計検定）<sup>®</sup>」は、英文簿記・国際会計基準から構成された非常に有用な検定試験であったが、惜しくも 2022 年度で終了してしまった。2025 年時点で、国内には実用的かつ初学者向けの英文会計資格試験が存在しない状況である。その代替として前述の米国財務・管理会計アソシエイト (FMAA) をお勧めしたいと考えている。FMAA は、財務会計領域だけでなく管理会計領域も含み、実用性が高いことに加え、USCMA ほどの難しさではないことから、初步的な「英文会計」を学びたい方に適しているといえる。本学が提携している Hock International は、USCMA に加え、「FMAA Exam Review」も提供しており、その教材を活かす形で「FMAA 勉強会」の開催を検討しているところである。

## V. まとめ

IMAと本学とのつながりについては、西澤脩先生が管理会計領域をご担当くださっていたことから、本学創立当初（2005年）から始まり、筆者が2013年に管理会計領域の科目を受け持ち始めてからも、IMAの提供するカリキュラム（USCMAやIMAケーススタディなど）と密接な関係を築いてきたことがお分かりいただけたのではないかと思う。これからも、積極的に取り入れていき、管理会計領域の教育内容の充実を図っていけたらと考えている。

### （参考文献）

Anthony, R. N., and Govindarajan, V. (2004). *Management Control Systems* (Eleventh Edition, International Edition). New York: McGraw-Hill/Irwin.

ウェブサイト：Institute of Management Accountants

<https://asiapac.imanet.org/>

ウェブサイト：東京商工会議所の検定試験

<https://kentei.tokyo-cci.or.jp/batic/>